

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	34220
政策名(章)	第4章 広域交流都市を形成します	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第2節 広域交流都市圏の形成	評価担当課	企画政策課
施策名	都市間連携の強化	課長名	長沢博文

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

近隣自治体と多くの分野で連携を強めることにより、行政区域を越えた広域的な都市圏域を形成し、共通の行政課題の解決や行政サービスの向上をもたらすことを目的とする。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		0	
人件費		0	
市民一人あたりの事業費	0	0	
合計	0	0	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

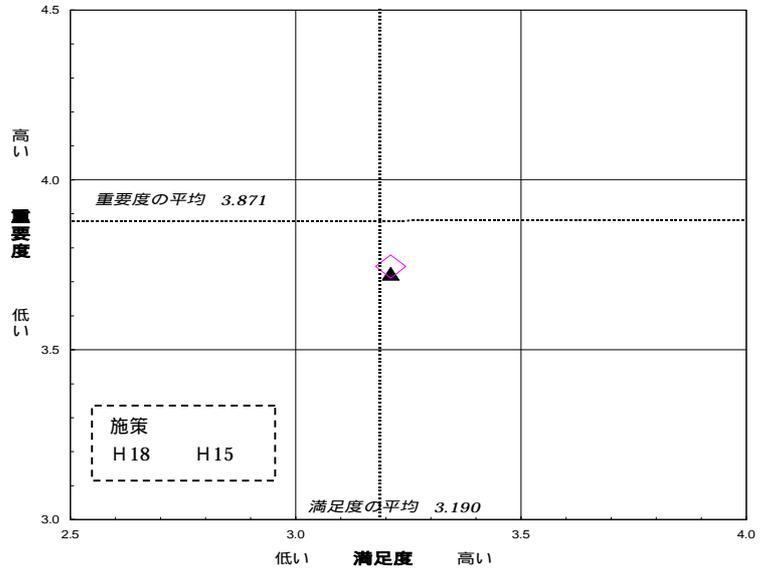
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	図書館の相互利用をしている相模原市民と町田市民の数(代理指標)	実数(利用者登録数)	29167(人)	H15
指標2	高齢者施設の相互利用をしている相模原市民と町田市民の数(代理指標)	実数	5062(人)	H15
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値		中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	30,000	31,797	H19	35,000	H21	39,000	平成15年から平成17年にかけての増加数を参考に目標設定をした。
達成率	106						
指標2	7,000	7,989	H19	10,000	H21	13,000	平成15年から平成17年にかけての増加数を参考に目標設定をした。
達成率	114.1						
指標3							
達成率	#DIV/0!						
指標4							
達成率	#DIV/0!						
指標5							
達成率	#DIV/0!						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.211で51施策の中で20番目。
 重要度は3.745で33番目である。
 改善要望度は - 0.1037で31番目である。
 年齢別にみると満足度、重要度とも70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度ともに施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、20歳代で前回調査より上がり、30歳代で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、50歳代、70歳以上で大幅に上がり、40歳代で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 ② 1	各事業の都市間連携に対する寄与が効果的に行われているとまでは言えない。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 ② 1	図書館等の施設相互利用は予算上の事業にないが、一定の効果を発揮しているといえる。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ② 1		
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	自治体間の連携は、双方にメリットを生むことがその要件となるため、連携に適した新たな案件を生むのが課題。
解決策	自治体を越えた効果測定方法の標準化ができれば、連携がより進むと考えられる。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

施策の目的と構成事務事業が合致しておらず、施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

